
夜空のベランダ

森かえで

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夜空のベランダ

【Nコード】

N4306B

【作者名】

森かえで

【あらすじ】

ベランダでの、恋人のワンシーン。

（前書き）

かなり甘い（つもり）です。注意！！

音を立てずに窓を開けたつもりだったけど、こいつはゆっくりとこちらを振り向いた。

「なにしてんの」

「ん？ オリオン座が見え始めたなあって」

「へええ！ お前星座とか知ってたんだ」

「オリオン座しか知らないけど」

「… そういう奴、結構いるよな」

成人を迎えた人間なのに情けないなあ、と首を振ってみせる。そういう俺は星座なんて全然知らないんだけどな。

二人分の白息が、弱い北風にゆるりと流され消えていく。混じりあつて解^{ほど}けることもなく。

こっぴどいふうに、自然にこいつの中に入っていけたらいいのになあ、って思う。普段から優しい人間じゃないと、ここぞ、って時に困るな。

「んー…」

「？」

「… ホツカイロ、持ってこようか」

風はあまりなかったけれど、辺りはしんと静かに凍てついていた。「ううん、いい」

「じゃあ、ココア、は？」

少し間を置いて、お願いしようかな、て言ったときにはにかなだ笑顔が弱々しくて。

ああ、やっぱりなんかあったんだな。そうは思うけど、かけるべき言葉も浮かんでなくて。何も言わずに部屋の中に入ってしまった。暖房が効いた部屋の中でも手はかじかんだまま。ティースプーンを挟んだ指が震えてココアの粉を少しこぼしてしまうほど。

なのに、あいつはずっとアルミの手すりを握ったまま。ああ、も

う、星なんて見てねえじゃん。手元に顎をのせてうつむき加減に、手すりにもたれている。

窓を開けても、さっきみたいに振り向いてくれない。

「ありがとう」

「うん」

指先や鼻の頭、それに目の縁まで赤くなっていて、痛々しい。それでも、俺に向けたのは笑顔だった。

いつもはふわりと辺りに漂う甘い香り、国道のクラクションにかき消されたのか？

「ねえ」

「… おう」

「どうしたの？」

「え」

「泣きそうな、顔してる」

赤い瞳、柔らかくて真っ直ぐな視線。優しさの全てが俺に注がれていて。

泣きそうなのはお前だ、って返したつもりだったのに、言葉になつてなかった。ただ、ぎゅうっと抱きしめた。

「… あったかいね」

「お前」

「ん？」

「あったかいのは、お前」

何ソレ？と無垢な笑い声が腕の中で響く。

ベランダで二人きり。二人で夜空を占領してみたんだ。瞬く星とあいまって、世界がきらきらと輝いている。国道を行き交う車のランプさえ、今は名の付いた星座になる。

「好き」

「… うん」

ココアが冷たくなるころには、俺らの気持ちはもう十分過ぎるくらいにあつたかくなってるよな？

そのときには、素直に聞こう。優しい人間になって。あつたかい
瞳で。

頭のとっぺんに口付けると、笑い声がまた耳をくすぐっていった。

（後書き）

恋愛は恥ずかしかったです…友人に冷やかされないか不安です…
感想ありましたらぜひお願いします！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4306b/>

夜空のベランダ

2010年10月10日14時23分発行